慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古典的価値学説と効用概念
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1925
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.19, No.2 (1925. 2) ,p.153(1)- 177(25)
JaLC DOI	10.14991/001.19250201-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



二田學會雜誌 第十九卷 第

古 典的 價 値 學 說 こ效 用 榹 念

橋 郎

高

主張する「哲學的急進主義」(Philosophical Radicalism)の時代で の全理論を以て、 Taxation.) David Ricardo 第十九卷 に於て 古典的價值學說と效用概念 3 せる 學 單純 原理」(On the Principles of Political Economy and В のであった。 あった。 恰も の時代は 派中に在 (V) 政治

view to their 二十 な 證式 12 τ. る Hは 13 b 廣 Ł 或 示 のとを考 3 Ji. Y practical application, す 淵 11 3 1-四 なる James Mill が 可 於 Ħ 3 貮 ふる 现 ح T ら う。 3 通せる質生活 面 Thomas Robert 宜 强 2 は ば、彼 して使用 は U た。而 12 固 Jeremy 貲 世 ч. 餔 13 界 F N Ricardo # 之 居 1820. 3 かず 12 は 10 9 Bentham 14 關 τ ìŕ 得 小 闘する 120 之れ 合 Malthus の原 生 E 說 72 上 智 É 彼 Ricardo 讀 す Ø) 0 0) Ł 想 孙 理を 12 る で 3 多 往 像 0) 爸 0) あ T から あ な 江 ኢ で 以 Įţ Principles of Political Economy 3 E 0 つ たど。 33 < 全 τ 關 0 爲め 小 著 3 l す 0) 生が 者 τ 3 3 15 (Letters of 論 1: 1: 12 3 生は 述 小 企 送 其 識 7 ٣ 生は 圖 せら n の原 13 向 义 せ る る 基 2 David 小 諧 理に き、之 ^ n T 3 30 Ţ 生 翰 300 言 0) 於 Ricardo 办 b 4 n 派 considered with a 小 B 15 彼 7 Ŀ n 生: 旧 更 n は 9 ず 12 等 5 0) <u>\</u> 峻 は 0) 目 12 我 か 5 3 Thomas 0) 原 Ŧ K 13 る 理 は 0) 八 間 る 明 3 Ø)

Robert Malthus, Economics, vol. I, 5th ed., 1907, p. 813.)° 1810-1823, ed. by James Bonar, 1887, рp. 166-167; Alfred Marshall, Principles ဝ္

己を Stuart Mill, 人 0) を Ricardo 以て N 12 る τ 12 5 カジ 大 13 刊 13 の。原 Œ 7 の ず 3 44 Autobiography, ば、此 であ 3 め しく之れを解説し、 て、諸 であ 12 3 理は毫も系統的著 る った。 / સ્ટ 般の <u>ٽ</u> حج 12 0 で 72 古典的 r 1873, p. る。 Ricardo に せ な 經 此 6 於 濟 0) C N 或 叉 書 7. Ŀ. 少 てゐる 27.)° 表 た起 9 3 數 0 は 者 週 又 明 0 書 は あ đ 知己 問 から するの 草 72 n 9 旣 題 此 James 中 0 る 朋 斯 0) (= 6 能 ح 自 ۲ < 友 著 3 說 ૪ Mill 己 力な 0 間 は す 0 1 を 0 眞 72 \$ 如 12 初 Č 要 E 不 め 配 3 ح 浆 0) 理 6 見 完 出 B 布 n 23 E 女 解 ば 全 \$ 版 的 な 0 3 彼 1 3 Z 0 か E B n し 3 0 目 認 9 か Ŀ Ţ B 目 T T 其 Œ 的 Z で は 0 细 は 讀 す b 7 な 者 る Ø T 5 公 0 Ø Š 3 茇 0 T 稿 n す 72 (John H あ 72 は、鬱 3 步 から T 自 3 5 3

0 讀 DE で る こと 办多 白 と云は 確質な なる C な 3 0) 假定 H 理 と看 的完全 及 15 CK に収 條 す r ฆ 伴 つて を 3 す 眀 3 確 要伙 0 家及 叙述す 可 CK る \$ 業 爸 家で 5 る 省 15 ので Ľ す つた。 可 L は 72 あ < の 實際 極 つ で ある。 が、彼 於て T 自 n

(Letters 12 す 4 n 白 加 壮 5 3 'n\$ # 之 叉た る ಲ್ಲ 爲めに彼 f Ricardo, 定も ح 25 ţ 說明 ず、彼れ 如く、言 3 假 理の ፘ n op. cit., pp. 176-177)° 說明 設 意 限定とは常に讀者自身に は 語を繰縦する は するの必要も 其 的 大部分 彼 なくし 0 の意 n 意 自 の基 義 味す Ġ τ 71 ___ の技に 言 <u>ー</u> る 千八 礎を成 充分に 所 百二 假定よ Ŀ 0 使 す 拙 6 强 用 Ø な + 調 b < 年 せ つて 論を 13 (", I am + 0 月 n E 定に 之 給せら 表 but a 7 日 n 3 明 す 附 ない。 y 轉 る U poor 0 ず 說 p; Malthus 宛 なけ 明 3 示 為め 3 master 彼 3 するこ th. と が 12 n Ø of language.") は 絕 憾があつた。 書 ある。 ح 彼 なら えず必要 てわな 翰に な n þ\$ 於 叉 b T

る矛盾 て遠さも 12 之 * 望 ч 合に n Ŀ Ricardo 12 以て之れ は 상 の で 固 たる 殆 は、吾人 3 i b 着 h する 時從 ど消滅 JE. ∾° (Marshall, op. るとしても、之れに は ۳ ا 更らに 來 < ح <u>አ</u> ሂ の客 U の逃作 B B 去 解 15 V. い。 3 觀 するならば、彼れ 寛大に解 せ 的價 中に 13 V ことを 是に 値 cit, p. 811.)° 浥 於ける n 人が彼れ 歸せ 學 釋 ば 説と新 於て なら しな 求むる L F, め Ø の眞 D. 0 H 53 たな n Marshall ならば、吾人は彼 12 說 ば 何 る生 7 意 な は 1 吾 の常 Ġ Ø ಸ್ತ 令 つて 觀 する かる 語を借 な 的 U 完璧を隔 彼 價 る 諛 Ø 8 示 n 值 n 9 醪 0 Ą 0 自身が 1 の 言 如 0) 云 を探 8 幾 餅 12 ^ 寬 る 0 多 12 が 不 Adam Smith ば、吾人 大 る 知 する 明瞭な 1 ષ્ટ 12 0)

主張する 値も共に「有用性」に Ricardo 1. p; 始 如 まる 單 純 依 12 平 效用 頫 12 する る 0) 古 み 2 ح 1. 的 t を数 價 9 值 理 T £ 3 使 論 B 用 は 價 總 0) 值 で 1 Ŀ あ 7 說 3 0) 明 價 し、費 そは 値 RII 用 決 5 のみ して 使 用 Böhm-Bawerk 價 t 值 9 B て、任 交 換

古典的價值學說と效用概

17

増加し

Artikel "Werth," im VII Bd., 1901, 得る財貨の正 0 ح 觀る。 Handwörterbuch der Staatswissenschaften, herausgegeben von J. Conrad u. Ņ 彼 752.)° 常な nは る交換價 Ricardo to 3 物 から E 有 如 用 說 性 明 13 3 E せる 以て 方法に B 交换 0) 於て T は 價 Ġ 值 ない。(これ 17 有 用 T 2 な τ Böhm-Ba-יע بخ 對 UZ.

包 13 B 13. 換言 v 7 す 72 なら ば、其 す る ば、実 0) 0) 物 办 13 方 法 12 137 な 於 τ 8 す 吾 3 b 0 滿 叉た 足 12 貢 13 3 J. 3

要な

3

b

Ŋ

Aufl.,

る す 0 で あ る。 かず 骨重品、奇 め 71 必 买 書、古 及 5 ح 鏠 等 \$ る 0 b 如 き貨 Z は 物 交 換 價 價 值 值 Z は 之 可 を 生 3 產 Ġ 0

0 め 及 17 び 本 思 原 慕の程 的 12 必要 度を異に なる 勞働 す 3 17 從 全 9 τ 然 獨 異 立 し、之れ す 80 (Ricardo, 8 領 有 On the 4 h ح Principles ح を欲 す 2

Political Economy, 1817, pp. 1-3)° 0) 望 及 C 願 望 が要求する Mi 多 寡 τ 0) 程 度 は 15 叉 於 13 常 τ 態に 持 續 的 在 1 9 τ 供 給 は 4jr 53 定 期 間 > 貨 精 物 確 は 12

b 存 することなきが 故に、價格 0 偶 然 的 ___ 的 0 變 化 を 受け 3, る ġ 0 は 存 \$

3 15 ど説 ٧٠ T B 30 (ibid., pp. 82-83.)°

3 1: Ricardo 7. 3 0) 要 Ricardo 定 品 凡 見 あ 0) で E ¥ る。 12 0) 便 生産 定 る τ 由 3 は 量 生 9 技 7. 12 產 η_j 4. Z Z し 百 可 Č, n 得 嶌 É じて價 富 0 步、分 E 3 で めに 0) す (riches) w τ 富 a) 品 ¢ 產 值 N 3 の 思 を上 は、 が、而 .g 高 C 0) 0 Ø) 3 發達、及 す 0) 有 用 下す 二倍 别 の 0) る ds 蓙 0) Z を認め 難易、即 常 得 意 3 岩 τ 會 V 15 别 る ኟ 办; 造 に赴 更 同 L 0) j. る。 放で 5 < 旭 程 换 は 0 E 0 度 3 Adam Smith Ď 三倍 言 B 富 间 下 12 る。 4 1 ¥ Ž 從 す ど考 n 爸 於 生 彼 る す で 9 (ibid., ば、其 生産 T 產 す 3 る τ n へる 3 は る。 す Ø 或 0 す 彼 0) 而し 3 道 言 N pp. 3 2 生 2 E (ibid., p. n は đ 太 產 意 富 0 2 办 C 377-378.)° 21 2 7 識 カ× み、或 加 Ricardo 使用 r る 其 L. 377.)° 得 Ø 2 α 人 વ્યુક P 3 祉: る は は bn Marshall は常 **う**。 ¥ Ţ 會 12 あ あ 狀 市 V る 间 n 12 17 態 丽

第十九卷

9 效 世 あ 用 \$ 明 1 かさ 9 は 15 12 る B 0 3 世 C 法 12 あ る。 3 而 者 る E L 0 る 12 扼 $\boldsymbol{\tau}$ Marshall い 的 収 (Marshall, τ 增 全 富 色 2 ے 無 量 部 T 12 效 ح 識 5 3 12 r 用 办 全 な 於 op. な は b r τ T at., 祓 Di L Ŀ 3 耞 殺 つ. 騰 から 用 は N 72 44 故 あ 12 814.)° 1 ば と 12 Ġ 於 3 Ricardo 彼 は 3 ٢ T 3 言 <u>ک</u> n ح か α E 總 云 は 13 3 あ 足 か ል U 其 3 Ŀ 3 ら、之 か T 0 17 如 全 叙 n 給 論 述 72 精 述 智 0 44 12 る 言 IJ 價 Ŀ N 3 說 通 Č 值 合 ٣ Z 世 C 1: ん n τ 2 は b κ 多 2 2 言 ð 7 T は 本 分 0 3 3 量 貨

見 蓬 11 E 稅 8 及 價 值 X 財 と Ż Ricado 政 0 n 12 0 間 質 0 際 效 v 問 7 用 題 かき 言 0) 完 影 說 12 全 於 す 酃 15 可 τ 办 國 3 \$ 比 至要 到 家 較 解 的 E 13 單 し E T 得 3 純 Œ る B な 路 2 0 3 ح Z 多 か な 故 t) n 6 12 L 此 ず 之 0) U 3 n 問 看 3 を 題 以 做 12 虞 す T ጀ 分 あ す る 同 B 3 時 is 0) 17 3

0 0 解 12 手 12 あ **3** (ibid.)°

至 3 10 勞 す Do b 3 Y V 定 4 2 決 p は す 定 は す 日 は は 0) 3 勞 す ح 0 3 2 72. 0 N 8 かゞ ح 3 は 少 (Ricardo, 通 す 專 3 勞 G 共 12 際 12 12 3 於 礎 op. 0) 5 で 勞 谷 目 ح حح 於 あ 7 働 cit., 貨 H は 慾 的 避 b 爲 なに つ 祉 殆 物 0 行 12 < 3 0 7 會 pp. 3-4.)° 異 勞 對 對 3 W 长 0 又 0) 5 し 銀 بح 42 n 幾 働 12 初 ч 3 τ 0 努 0 0 許 其 圳 ili ili 化 費 12 + め 相 か 0) 1: 3 T 分 質 他 對 Z 生 Mi 15 及 勞 n C B 0) 産 的 2 る 3 仄 間 定 72 あ ð 1 T Ricardo 3 z 3 0 量 w---0) は 勞 3 事. r 12 E 度 E 比 業 働 以 T 12 12 以 0 31 7 は 0) 自 0 3 1 す 由 る H 力 依 る 12 B 爭 0) で 世 t 0 方 あ す 6 2 3. 30 る 17 12 1: 的 T 若

九

成 更 16-21.)° 쓘 Z 資 比 足 る る 的 間 料 的 す 51 め 72 0 投 度 0) T る で 分 は 4 之 8 す B 考 す Ξ 30 る n る 方 る 3 查 b 0 E 0) す حع 0 1= > V 5 及. 3 と 觀 51 3 借 勝 る。 び は τ Ricardo な J. な 其 B ifi Z' 化 る \$2 0 (ibid., 0) 3 0 斯 侧 入 12 力; 35 đď. 世 0) 不 故 0) 固 12 物 5 O) 1: 0) 7 22-42.)° 定 的 12 3 持 3 Mi 續 43 勞 的 T 資 n 2 は 本 彼 z); 12 3 7 な 0) 其: る n で 2 0) 6 は 0 n بح 用 ---る る 2 せ Ricardo F **∤**こ 對 0 0) 12 B 彼 みな 八 田 的 張 (ibid., 頮 絕 Ħ. n IR す 百二十 價 锌 2 かぎ 7 τ 30 值 6 估 的 7. .đď る 0 著 ず、其 を支配す 料 相 (ibid., 12-14.)° ---L ¥ 值 對 年 < 0) 5 1. は 世 ďď 12 助 る 於 貨 0) 1.

曲 2 1n 致 而 3 τ 1: 3 0 Ŀ 3 Ξ 0 版 ど觀 市 0) ح る T 2 な 要 (ibid., 9 原 τ 7 3 n 囘 3 收 す 0 資 5. 4 7 本 5 更 0) Ó 則 τ E 高 0) 1 12 7 更 n か 逨 勞 6 長 度 銀 1 72 C 短 な 等 資 0) 相 本 過 ----大 同 82 な O) 난 n U か す (Ibid., chap. i., 叉 5 2, 21 る 3 加 2, Ġ 騰落す 生 る 72 B 性 E 產 \$ 等 0) 得 之 費 3 る 事 る 7, 智 n 高 期 sec. 場合 質 か 要 間 る Ŀ 價 12 す 市 13 使

な。 Ramsay McCulloch, 1816-1823, + H 中 附 つ McCulloch 宛 ч. E n 丁 ば Ricardo ¥ 0) h 書 ed. ኟ 翰 ўy す は r る 斷 Ļ٦ 參照 H. Hollander, C τ 0 す 勞 は 可 働 更 きで 5 價 12 值 Publications of 說 須 3 5 Ø (Letters 徹 < 彼 瓜 n 世 the of か 3 David 主 ----American 千 張 八 者 Ricardo Ħ で ----**-**は Economic 1 13 ŏ 年 かっ John 2

さる 九世 Association, vol. X. No. る。 で b t 紀前 0) 利 6.) あ で 自 T せらる あ 42 る。 斯く して費用 ると云ふ った。日 Ricardo H 上遞 τ <u>ک</u> ح 如 る社 又 を求めらる た > 垫 ことが 〜「Malthus 自身 で 會的 Sep. 漳 以 爲り、次 n 句に て、利 は る。 不安 氽 早 は 0 (礼 於て Æ 潤 0) 7 の裡に發生せる英國社 を 學 は T b 後 鄶 12 は 一物件 含 至 說 年の Marx 1895, p. 71.)° 斯くの 余 め 策 b 0 0) Ŀ る「生産費」を意 時報 Ł ---たるこ 42 Karl Rodbertus 部 理 0) 如き 第 55 等 3 ح 少 用 ĨE. 0) ф حع は 3 12 Ø 吾 る 價 Ξ る 會生 值 で 及 17 智 す Ç 办; C 彼 近 義 示 者 0) いっと ど 0) 意 0) 稿正 他 成 によ る Malthus 味 T **9**) る (Ricardo., す 9 ح か 3. 先づ第 る 論 會 τ z 0) ح す 17 5 於 0 9 か 7 見 τ 步

Marshall Gouvernement considérés 一動に て居 其の高 於 つて感 第十九卷 C Robert Jacques Turgot ゼ たった。 った。 由 礎を は T 見 2 12 つて説明せらる 有 0) 情を通じて作用しつ τ 上 Burlamaqui 15 す 丽 Æ け ح (Valeurs et Monnaies.)° E るも 71 る需要供給法 して古典派經 展する 影響を 第十六 4 7 relativement l'un à l'autre, 3 0) 11 ど Ricardo の 思 端な 有せ 效用 トことを敬 迎命 ナポ 料 紀 せる 齊 0) 3 ざるも 則 r 以 変に > 學 0 勞 有 0 ある條件 τ の Étienne Ferdinando 同し ~ tz. 在 史主 交換價值 のと認め、之れ 濫觴と略 7. つて著 1776, pt. I. chap. i.)を生 \$ 學 は 述 72 Bonnot (Éléments du droit Naturel, 1775, p. 194 ff.)° 説の主 の 時 z Galiani (Della Moneta, 結果として心 19 して 0 13. L は又た 前 1í: < de 0 が動揺は偏に 提な 效 張者を出 de 拙稿 Malthus, J. S. 用 時 價值其 り と を残 Condillac (Le を等し E 參照)。 以 理學 すと 做 調 1 んだ。 全 の者 す 5 4 財貨の 共に、他 的主 Libri Cinque, 1750.) る Mill, と共 を以 τ 勞 Commerce Louis François 觀 に、之れを 働 ジ 值 ч. Cairnes 的に 稀少性 τ 2 方 觀 效用の ネ 念 E 太 價值 は かっ 利 0

質に提供せら l'agriculture et le commerce, Oeuvres, par Oncken, p. 288-290.) Abbé Morellet & et sur l'Impôt, p. 980 ff.)° 想に對して更らに一層 72 價 François Quesnay 蛭 低 して第一、效用第二、必要不可缺の費用、第三、物件の供給狀態、第四、消 (Prospectus d'un nouveau dictionnaire du commerce, 1790.)。 而して其の師 の存し得ざると同時に、そは其の以上に被交換性を必要とすることを主張 B 亦た欲望を以て 1767, pp. 51, 35 remarque, 22 remarque)° \$U たる 無償效用と有償效用との區別を認め (Questions sur la **企**物 0) の競爭と做し 精 價值 練 ¥ 增 加 滅の原 \sim んこ いる。 (De l'intérêt social—Daire, Physiocrates, 因と観た。 とを 刺したる Le Trosne は 闸して Physiocrates (Essai Analytique sur la Richesse 學派 效用を有せざ 費者 價值 Quesnay 6 *(*) population, 原 F 及 因 心 版 p

斯くの如 る價値 る て、價 價值 の基 3 0) 原 定 礎と 上. 因 12 に於 於 12 τ 做すど ることを敦 かる 太 利亞 同時 W 貨 に、總 0) へて變らな の稀少及び 經濟學 べての 者 價値が有用 は t) 其の收得 依 9 120 然として Pompeo 0 性に 图 難 A 比例 Ŀ Neri 0 强 t) 調 有 する。 3" 望 な 用 及 の事 性 C (Osserva-を以て 質を

Politica, -£Biblioteca Custodi, op. cit., Parte Moderna, Tomo XI, p. 生活 第十九卷 sopra il 資料 Parte મુ 沱 0) で (一六七) Antico, Tomo YI, p. 127 ff.) prezzo legale delle monete, 1751, Custodi, Scrittori Classici 確定に Economista, \$ ** も大なる價値 も多 Ø) 了 ど よって で 古典的價值學說と效用概念 のど概る。 な Prima Serie, vol. III, 1852, る欲 彼れは一財貨 るで説く。 を費さ 單一のも 一財貨 ? たのである。 あることを力説する。 望を滿足せし 然し 0) のに分解せられる。(Elementi di economia publica 乍 彼れは 交換價値を以て る Antonio Genovesi B の 344 ff.)。Pietro Verri は 價値を以て 兩 生産及び の問 (Lezioni di Commercio ossia di Economia Civile, 斯く め得るものは小 0) 題に p. 180 ff.)° Marchese Cesare 割 0 合は 準備が 如き一般法 逢着する 需要に 而も彼れ は 勞 吾人 腙 Œ. 12 0) なる欲 間 則に 北 至 は何故に Italiani rfo 望 9 1. て、稀 望を滿足せ かゞ 消 9 d. Bonessana de 費 少性 Ø 高に せらる 反

Ortes # economia nazionale, Mi oni sull' economia politica, し のに (il valore sarà non più che la ricerca de 'beni, divisa per la massa consumabile di essi.)° T 正比 供 優りて與へんとする。 第 12 ど 給及び + 就い 觀而して「欲 八世 し、其 て 行 1774.—Biblioteca dell' 需要の作用を算術的法式に 紀に の消費し £ が其所望する貨物に對 望」(bisogno)を以て或る 估 於ける 料を 得る高に ベネチ -Biblioteca dell' 表示 選擇(la preferenza, l'eccesso della stima)なり Economista, I. Seric, vol. III., p. 902 ff.)° 反比を為すを観たので ア經濟學者中に 言 Economista, Prima Serie, 13 よって 財 し、彼れ 貨に と做 在つて 説 對する かず し、欲 明せ 之に 望 ある。 最も んとし、價値が 願 16 及 望と同一視 ^ C vol. III, て交付 卓越せる 稀 と稱 即ちV= 少性を した。(Meditazi ŗ. せんどする す 一財貨の 以て價 Giammaria 556 ff.)° 可 (Della であ 3 値

of which Man's Nature is susceptible. 及 C 顧 A Table of the Springs of Human Action: shewing the Several Species of Pleasures and Pains 7 T 英國を 観るに Jeremy Bentham 'à 中に於て 洪 打 Ø ^ る欲 Principles of Morals and Legislation, 1780. 望及 U 望に 關 す 3 奥 妙な

及 內 す 3 が、英 る C 9 は 35 的 0 國 n 力 0 大 Samuel Bailey 重を意 ИD する 非 學 嘆 美、若 3 12 F τ 交 τ 2)3 單 换 25 あ 3 す る 3 あ T 9 3 日 0) 72 3 大多數 で 的 吾 好 あ 物 0 あ か る n 12 0) つ 交 τ 看 3 12 なる 沙 n す لح 貨 は 0 度 目 je す 位 L 進 T 3 0) Ψ, 感 0) 7 K ず 以て、毫 で は Manual of Political Economy 12 述を排 其 相 E る Ricardo Ħ. <u>ت</u> ح に看 近に 0) A. B 感 3 13 0) 情を 至 は 12 出 鴐 さる は、吾 る す あ 的 b る 料 0) 1. 若し 確に 得 b 人 少 るが、 は是 G 情 C E ほ る **%**

るを に分解 followers, するに vし、斯く and 1825, pp. 3-4.)。 彼れ てゐる。(ibid., p. 231.)。 過ぎざ Causes て經濟學の有することなき單純なる態樣を之れ of Value, る もので あると定義する。 chiefly in Reference to the 1 Ricardo 0) 學 從 かゞ (A Critical Dissertation 價值 Writings of Mr. の凡ゆる 原 15 與 因を單 Ricardo S ^ h the ۲ 一のもの 企 and his Nature, 圖 7

τ exposition of the causes of the fluctuations of the price of Dr. Smith's, Mr. Ricardo's, and Mr. Malthus's Doctrines upon those subjects; and 需 mi とな 要 る 0) してSir Edward West は其の Price 係 0) 10 0) 依 却 更 部 つて 賴 組 し、而 12 及 費 進 の及 r 朋 資力 hτ で 5 說 爸 需 自 這 要者の 曲 辯 觬 襚 つて 0) < 往 爭 す 分 析 0) 3 意 决 繒 of Corn and 體中 行 0) Ħ 定 世 立場 はる に看 せら んとする 12 於て > 出 る 際に 復 3 corn during the last 30 years, 1826. 12 Wages of Labour, with observations 歸 3 n 最 0) は、普 する。 得 B 態 ある B 低き價格を支排は 度を採った。 通 限界效用 と做した。(ibid., p. 29.)。 0) E 利 < 價 澗 を伴 格 0 彼れ は 觀 an attempt 供給及び 念を表明 る んとし は凡 生 noqu 需 す 9

Economy," τ る つて、吾 ち L 足 原 Mi 換言 of variety) は す 世 3 中 多 Þ 人 7 んとを欲求 は是 0) すれば之れ 0 の二つであ Nassau William Senior 價 要素と の力、即ち效用であ せる快 を指 格即 3rd. れ等 (love なる 5 感を生 摘 す of して可 E 自 る旨 るど し、生活 0) variety)及 價 の に 然 12 思 じ、凡 讓 値 價 供 を述べる。 ָס E 0) 格 する。 必 び 炒 E 0) 3 ふる 要品 卓越 生せ τ 制限 る Z ٤ 凡 鼎 は 柳 げ、而 なりと做 ð は 发に 愛 (love ず 類 る (Encyclopedia Metropolitana, 3 0 彼 12 ٤ 不快 る め し > E て是れ of distinction) τ n し、其 を包 は 少数に 足 E 向 等三條 其 含 間 顯 Ď 0 して、且 著 價 る 平 第 る B 而 な 值 苦 Ø つ單 で 及 0 T 1836, 包 於 Œ あ 3 0 純 H 在 U す art. なる る多 ٤, 影 ılt 凡ゆる る つ 三個 響 す 樂 τ (ibid., る直 В 0) ч 0) 0) 主 0) 有 72 超 טי で

J. B. Say 値問題 (Traité d'économie politique, Livre I. chap. i, Livre II. chap. i.)° (Principes d'économie politique, ouvrage couronné par l'Institut, 1801, ch. i. iii.)° る 欲望に たるここと餘りに大なるが故である。 12 及び 發 Claude E る 3 は 生 の注 财 12 貧者に 0 す 7 指導 貨の 第 Louis Auguste Say は 財貨 Destutt de Tracy る の 觀的方面を高 2 人 せら 事質を特に强調しながらも事質止Sayの 办多 對して全然 個 れたる買手及 さ説く。 Nicholas François Canard H は 人 使 的 費世 所 唱し があつた。 相 得 蓋し 生 5 遊 て、軈が 0 活 れ、且 滅 し得ることを注意した。 び賣手間の妥協に 熟練勞働 71 少に 於て つ変換 (Traité d'économie politique, 1823, chap. 3.)° τ の效用に 連れて 費用 は 彼 は 價值 n 關して 順 智 次に孰 説に移れる者に 以 よつて成立 7 は 同一 n 氼 n 0) 道に移れ 0) 彼れは一財貨の效用 V ば み で價値 物が 欲 ١٢ 望 する ۲ 格 滿 別個の人々特に J. B. Say るも は 9 0 足 が人間 Mi Ġ Ø のに Antoine 對象を て先づ價 C 加し かゞ 0 ある。 立せ ろ 0

以て (De le nature de la richesse et de l'origine de la valeur, 1831, 性を以て O 2 Antoine Auguste Walras 4 R h M بح す 3 る 財貨の高 individuelle 貨 נע 0 Ŀ 其. 浓 れど等 が這般の U Ge. る a 方法 のあつたことも固より記憶 richesse 財貨に 12 く稀 於 て見 少性(rareté)より生するも publique, 1827, Livre 對する欲望の 積 53 1 b 總高に 0) ch. xii et xi.)° ح ch. 思惟 せられなけれ 對 vii et iii.)° のと做 L す 72 る 關係な (Traité し、而 叉 ば た價値 ならぬ 9 して、稀少 élémentaire Č る to

と云ふ ことが 1840, 3me leçon, p. た 其 は の 12 假定の ない。 不變な <u>.</u>. n Pellegrino 自 體 人の Luigi Edoardo Rossi に於ての して彼れ 54-58, passim.)° 存する 項にも、亦た た消失する。「價 欲望の 3 存 可變的 足の 客體に 在するも 而 限界 を於 Ø 交 固 換價 及 有 0) τ 在 8 چ 懕 13 び つて 值 る 思 す 相對的 Ŀ は、價 12 n 性質でも 以て は全 す ば、使 無 制 So (Cour 值 限 然客 惟 用價值 力に は なる りそ ない。 先 服從 舰 づ效 的 競 d'économie 炒 は 使 なる 邹 或る する 消 用 用 失し、而 0) 1: 行は 何 價 依 politique, tome 值 3 に於 r b ど が際 有す 吾 存 τ 效 4 人の T 用 3 3 n

これに

分析 Untersuchungen, 1832, ii.) 其の先人よりも更らに周到なる注意を以て が物 Wilhelm von Hermann 5 は個より斯くの如きは 價は生産費に L 價 5 值 决 トものと観る。 定の特殊要素を論述した。(a. 依つて決定せられ、自然的價格 實際上完全に質現せ Bentham (ibid., 3me leçon ff.)° E. 研究して欲 a. O., らる 望の 他方に於て 階段を လ 分類を行ひ、 てと斷じ 74, 82-88.)° 形成 す τ る 13. 0 (Staatswirtschaftliche 需 一定の きもの Friedrich Benedikt 要及 水準に C で 供 はあ

Cambridge, 1844, pub. 1845, Lec. III. p. 60.) った。 分類 の著 E 15 せ 7. 如 7. た る 沉 0) の諸欲 年間 可き、総 であ し、殊に Hermann 及び Rossi 獨 る。 えず擴大しつゝ 望は其の地位を高め、而して其 逸に居住 望の (Four Lectures on the Organisation of Industry, し、當 足は直ちに 時 ある 英國 尚は最も 願望の連系が喚起せらること做 第二の 12 に於 負 明白に 7. ኢ 所大 のを h 效 柳 بح 15 用 知 喚起し、「食料 る s 法 な 渚 3 則 17 の本 脈 な iri i-i 迫 D) 質 の度位 2 が豊富 delivered Banfield . が 8 72 意義 大 す ૪ 1 陸 ጀ 0 依

獨の Rev. William Foster Lloyd 等は暫く之れを指くとするも尚 を諒 して pp. 96-99.)° 知せ Hermann Heinrich Gossen 並びに蘇の John Craig 愛の Mountifort Longfield 及び英の 居 3 つ Ø 12 觀 長く忘れ のである。 ある者に Richard Jennings が居った。(Natural た る 佛 0) Antoine Augustin Cournot 及び Etienne Juvenal Dupuit ほ以上の Elements of Political Economy, 諸 著は Jevons の

\$ William Stanley 云へる稍 以て、價値を生産費に 13 3 定 〇七五) Jevons が「考察 や新奇なる 示 者すら存する。 以て價 す 賴 な 古典的價值學聞と效用概念 ので つた。 交換理 つ 依賴 0 起源 見 る。(中 あるめ する 17. 祈 بح 到 8 漟 0) は之れ بح 3 世 0 0 ど做 đ. ч. 反 ねる に反し せる Τ. は p3 र्ट ट は 氽 7 丽 T 法を 要 單 は 周到 0) は 뤠 常 は 限を通 0 か 氲 領 却 な 必 じ す 然 有 原 刑 0 3

定す て貨 な は 貨 る 影響を る 3 B 0 智 た。 は 0 の と 效用の程 效用 が、必 包 4. Z 效 意 用 認め Ľ B 有 M 要 して اك す するこ なる 度 3 72 す な τ 彼 r る 5 生產 點を ے ج れ等 0) 8 自 ຜງນ° (Theory of Political Economy, 變するに であ は、そ 能は 變す 渚 は生 法 は る。 3 E は 産 其の 市 n 3 3 由 (Marshall, op. cit., 費 ば、需 つて る 1 交換 12 詳 J. 圣 唯だ單に 要 b 綳 7 價 な 循 る 去 生 る 産者 す 72 說 0) 2 5 上 C 3 明 す 間接の Ö 71 から を要する 817.)° 何等 n の 上 1871, pp. 1-2.) 賣に提 方法 た眞 6 ば、そ 0) 0) 影響 13 15 E 供 說 は 以 る をも 変換 餘 0 は す 7 3 響を 有 す 激な 古典 る b 0 E E 有 M L 12 何 す 7, 的

蹤さ τ 12 於て h 3 值 で引 3 す ۲ 5 證 7 以 然 Ŀ か ら る 看過せ 3 B ч の 價 ✓ Galiani 及び で 3 値 あった。 8 Ø) の で 成立 は す 13 Turgot 等 3 古典的價值學 か が爲 った。 め が之 には有 電だに n 説は 用 認識 偤 新 性 だ Ė ح 1 t) 机 有 獨占 B 的 限 0) 價 み 別 ۲, 15 のみな かず b 0) 共 先

3 Marshall 等 投下さ 用語を以て は「有用 ず、總 た。 想念に非 Einleitung, 12 ~ 惎 1. 性 7 表 ず ኔ 8 は < 0 Allgemeiner 朋 稀 して、既に古典的 つて企圖 8 少性」と 舟 0) 貨 ح 類 12 敎 0 對 مح せら ふる 17 Theil, 依 貨を τ 少に 0) 賴 n 價 Buch 價 たる である。 し、勞 過 值 3 r 118 τ 働に 其の Η 决 說中 界效用 1895, Mi 定 使用 (Heinrich Dietzel, ţ 4 つ に存 3 τ S 勞働 說 の限定 τ 228 增加 L ح 0) 費用説と する る る。 によって ۲ والم 230 f, 232 f.)° t L 得ざる 5 ð τ Theoretische n のを の結合は、決 增 性 更ら 财 加 る 貨 し得ざ 及 資 は有 び勞働 斯く Socialökonomik, 7 3 到 し 朋 觀 あ 30 投下 τ 性 财 C 貨の ጀ 來 12 E n 13 12